

雪山、藪漕ぎ、泳いで、藪漕ぎ・・・

南会津 村杉岳～会津朝日岳

村杉半島に行きたい自分と、白戸川を横断したい松本さんの意見を合わせて、丸山スキー場の駐車場からスタートし、延々と尾根を繋げて東に位置する小手沢山まで踏破する縦走計画を立てた。はて、どうなることやら・・・。

【日程】

2017年5月3日～6日

【メンバー】

吉澤 (L)、松本

【地形図】

未丈ヶ岳、会津朝日岳

【記】 吉澤

5月3日 (水)

松本さんが予約してくれたタクシーに揺られながら、通い慣れたシルバーラインを通り丸山スキー場へ向かう。先月上旬に来た時より雪は減っているのがよく分かる。ところどころ黒々した山肌を見るたびにため息が漏れてくる。藪漕ぎだけはしたくない。綺麗な雪面をポクポク歩く楽しい縦走がしたい。

いつもの駐車場について準備をしてから雪壁を越えて林道へ降る。只見川を見ると、雪解け水を川幅いっぱい満たして轟々と流れている。透明度のない沈んだ色の水は、鉛の塊のように見える。これ、白戸川横断できるのか？不安が頭をよぎり、松本さんと目を合わす。松本さんも同じことを考えていたようで顔が渋くなる。でも、行って駄目だったら戻って来ればいいさ。

気分新たに林道を歩き、上大鳥橋を渡り、白滝沢右岸尾根に取り付き村杉岳を目指す。4月に来た時も先行者がいたが、今回も先行者がいるようで新しい足跡が目指す尾根状に続いている。懸念していた藪漕ぎをすることなく順調に高度を上げ、稜線状に出てから村杉岳に目をやると単独の先行者が歩いているのが見えた。人のこと言えないが、物好きがいるものだ。先行者が白戸川沿いに降りないことを祈りながら、自分たちは予定通り村杉岳直下で泊とした。

日差しが強く気温が高い。たっぷりの太陽光を浴びながら持参した僅かな酒を節約しながらチビチビ飲み始める。松本さんは欲求に対するブレーキが壊れてしまって、先々のことを考えずにお酒を飲んでた。翌朝は早いので、日が沈むと同時に就寝とした。



5月4日 (木)

2時起き 4時出発。山での生活は驚くほど健康的だ。平日仕事に行くときの朝は全く目が覚めないのに、同じ人間とは思えない程、山の中だとスッと目覚めるから不思議だ。

日が昇らないうちに歩き始め、すぐに村杉岳山頂に到着。昨日の先行者は大川猿倉山を目指したようだ。下降路に考えていた北東に伸びる尾根に計画通り進路をとり、グングン高度を下げていく。

ここまで藪漕ぎゼロで来ていたが、1000mを過ぎたあたりから、ついに雪がなくなり藪が出てき

た。面倒だ。藪が絡まるような密度の濃い藪なら心折れていたが、獣道がうっすらついた歩きやすい藪尾根なので心は折れる寸前で気持ちを繋ぎ止めてくれた。途中、尾根を間違えたので来た道に戻り、コンパスを地図で方角を確認して計画通りの尾根を降りていく。最後は完全に藪尾根歩きに変わってしまった。持ち良い雪山歩きはどこへ行った・・・。



藪尾根歩きとは別に、下るたびに大きくなる音を聞きながら気持ちは沈んでいた。野太い轟音が進んでいる尾根の末端から絶え間なく聞こえてくる。歩みを止めて眼下に目をこらすと藪の隙間から見覚えのある流れの白戸川が見えた。まさに昨日見た只見川と同じ、鉛色の水が轟々と流れている。全てを吐き出すように暴れ続ける白戸川を見たとき、絶望感に包まれて思考が停止した。尾根の末端に降り立ち、荒れ狂う白戸川をいくら眺めても対岸には渡れそうにない。敗退の二文字が頭をよぎったが、可能性がある

ことを信じて上流に向かいながら弱点を探すことにする。

歩くたびに可能性が減っていく。それでもメゲずに歩き続けると、川が右に曲がった地点に唯一の狭い地点を発見。・・・でも渡渉なんてできないので、渡るとしたらズブ濡れ覚悟だ。結局、激流にロープをつけて飛び込み、頭のとっぺんまで水に浸かり、必死に泳いで対岸の晒し場にたどり着いた。次に、ロープを張って荷物を渡す。計算通りに荷物は水面ギリギリのところまで耐えてロープを渡ってくる。一つも荷物を濡らすことなく受け渡しに成功したら、最後は松本さんを引く。岩の上に立ち、気合を入れて飛んだ、と思ったら全然飛ばないから流れの強い流心ド真ん中に落ちた松本さんをロープで必死に引っ張る。少しは泳ぐ素振りを見せても良いのに・・・。川の流れに身をまかせ、なんて歌詞の曲があったなと思ったら「時の流れに身をまかせ」by テレサテンでした。白戸川の流れに身をまかせたら、田子倉湖に沈んで誰も愛せなくなってしまうよ。

なんとか松本さんを引き上げて無事？白戸川の横断に成功。時間は早かったが、もう歩きたくないので川を渡った先にある対岸で予定より早く泊とした。今日も日差しが強く洗濯物日和なので濡れた衣服はすぐに乾いてくれた。緊張の糸が途切れたのか、松本さんはお酒を飲む量が昨日より増していた。



5月5日（金）

1時起き 3時出発。昨日の遅れを取り戻すべく、気合を入れて早起き出発。暗闇の中、ヘッドランプの明かりを頼りに始めから藪と化した尾根を登る。踏み跡なのか、藪が薄くて歩きやすい。一息入れる為に立ち止まって目を挙げたら、目の前の立ち木に生新しい熊の爪痕が残っていた。樹液が滴り落ちている。岩手の八幡平で出会った巨大熊を思い出して、急に暗闇が怖くなる。四方八方から熊に狙われているようで、休憩時も気が休まない。少し出てきた雪面にも新しい熊の足跡が付いていた。怯える自分をよそに、あとで聞いたら松本さんは全く気にしていなかったとのこと。肝っ玉座っています。

尾根の途中に古い切りつけを松本さんが見つけたと言っていた。やはり踏み跡はあったようだ。日が昇り明るくなるにつれて緊張が解けて気持ちが途切れたのか足が重い。ヒーヒー言いながら高

倉山に到着。目指す会津朝日岳がよく見えるが、山頂の前に黒いギザギザ尾根がある。あの尾根、歩けるのでしょうか。松本さんも行ってみないと分からないとのこと。

小休止を挟みながら藪と雪がミックスされた尾根を進んでいく。気温が高く、方々から雪崩の音が聞こえてくる。暑くて暑くて、喉が乾く。雪に足を取られ、藪にもがきながら、歩みは遅々として進まない。高倉山から見たギザギザ尾根は完全な藪漕ぎとなった。



このギザギザ尾根は通称「八本歯」と呼ばれているようで、確かに歯のような岩峰が八本ある。バリエーションルートで歩かれているのか、うっすら踏み跡が見えるが、シヤクナゲとハイマツの藪尾根は手強い。イライラが募り、暑さにもやられて神経がすり減っていくのが分かる。グアァァァと叫びたくなるのをグッと抑えて、歯を食いしばりながら藪を漕ぎ続けること3時間、やっと会津朝日岳に到着した。

ザックを下ろして休む。途中から靴擦れを起こした右足が痛い。すぐ下には避難小屋が見えた。今日の目標としていた小幽沢の出会いには遙か先。しかも辿る予定の尾根はまたしても黒い。・・・水も無いし、エスケープすることに決めた。

避難小屋に到着して全てが終わった感に浸る。松本さんは、まだまだ歩けたのにな〜と揶揄ってくるが、足が痛いから仕方ない。無理は禁物。続きはまた歩けば良いさ。避難小屋でのんびり疲れを癒した。松本さんは、もちろんお酒を飲み干していたので、自分のお酒を分けてあげた。

5月7日（土）

今日は下るだけだ。北面の斜面には雪が残っており歩きやすい。順調に下り無事下界へ到着。イワナの里ではオープン前におねだりして瓶ビールを売ってもらい、ささやかながらお疲れの乾杯をした。予定通りにいかなかったけど、大満足の山行でした。松本さん、続きの尾根は再来年歩きましょう。帰りはマイナー路線の只見線に揺られて、電車の旅を満喫して帰路についたのです。



【行程】

5/3: 丸山スキー場駐車場 (7:30) ~ 白滝川右岸尾根 (9:30) ~ 稜線 (10:50) ~ 1500m 付近泊 (12:30)

5/4: C1 (4:00) ~ 白戸川 (8:00) ~ 横断終了 (11:20) ~ 600m 付近泊 (12:30)

5/5: C2 (3:00) ~ 高倉山 (6:10) ~ 八本歯 (9:30) ~ 会津朝日岳 (12:30) ~ 避難小屋 (13:00)

5/6: C3 (5:00) ~ イワナの里 (8:00)